

ポスト新型コロナウイルスにおける飼育実践—アメリカドッグパーク調査結果より

麻布大学獣医学部獣医保健看護学科 愛護・適正飼養学研究室 大倉 健宏

1.社会学での先行研究(大倉 2025)

表1: 日本の社会学における主要なペット・動物研究 分野と発表時期

	1995 ~ 1999	2000 ~ 2005	2006 ~ 2010	2011 ~ 2015	2016 ~ 2020	2021~
1.種としての動物論			真木	ましこ		橋本
2.ペットロス研究			大村	新島		
3.家族社会学	田淵	山田				
4.獣害論	丸山			牧野	閻	
5.災害避難					梶原	
6.猫社会学 他				大倉	遠藤 赤川	大倉

2.新たな社会学におけるアニマルスタディーズのテーマ

- 動物をはさんだ人と人の関係
- メディア・表象としての動物
- ペットフレンドリーなコミュニティ
- 理念型としての愛護適正飼養学
- 新たな条件としてポスト新型コロナウイルス



3.調査経過



4.調査実施概要

2018年アメリカ調査動画 2分6秒



表2 調査員数・実施概要・回収票数

	2013年調査	2014年調査	2017年調査	2018年調査	2023年調査	2025年調査
調査員学生数	5名	3名	6名	12名	9名	12名
調査実施日	9月2日・7日・8日	8月30日・31日9月1日・6日・7日	8月26日・27日・9月2日・3日・4日	8月25日・26日・9月1日・2日・3日	8月26日・27日・9月2日・3日・4日	8月31日9月1日2日
調査地別日時間	SF1日 NY2日	NY3日 SF2日	NY2日 SF3日	NY2日 SF3日	NY2日 SF3日	NY3日
回収票数	41票	33票	119票	159票	130票	98票
調査地別票数	SF19票 NY23票	NY23票 SF10票	NY52票 SF67票	NY31票 SF128票	NY55票 SF75票	NY98票

5.新たな条件のもとでの調査研究展開

- 新型コロナウイルス流行、大変化による**新たな条件を加えた展開**
- ペット友人との関係の変化
- 飼育知識の源泉の変化
- 飼育実践の変化
- 生活時間の変化
- 飼育意識の変化
- ペットフレンドリーなコミュニティの変化



6.アメリカ調査結果 単純集計比較からわかること 第一次調査から23年調査の変化

- 住宅様式の変化があり狭い住宅へ
- 犬種の変化 小型犬へ
- 手作りごはん (FEEDやFOODからMEALへ)の増加、
- 1人での飼育が減少、食器共用増加、飼育に必要な施設として公園の増加、**散歩回数が減少し散歩時間は増加**、ペット友人とのコミュニケーションでは飼育知識増加、ペット友人の相対化、悪い飼育マナーとして排泄物放置へ、ペットフレンドリーなコミュニティとして公園や広い空間へ、歯周病ケア実施増加である。



7.クロス集計における変数の特性からモデル化

- ①関係が変わらずみられた組み合わせ
- ②逆の相関関係がみられた組み合わせ
- ③関係がみられなくなった組み合わせ
- ④新たな関係がみられた組み合わせ
- **説明変数A.(飼い主)により、被説明変数B.(飼育実践)を説明した場合が、最頻出であった。(大倉 2025)**



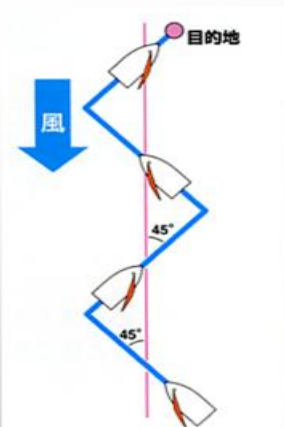
8.モデル化に向けて

- クロス集計における説明変数と被説明変数の組み合わせから
- これらは新型コロナウイルス流行に影響の有無により、変数の意味が異なる。
- 異なる変数の意味合いにより、それぞれの調査結果において示す**関係が変化した**。これらをアメリカ調査結果における「**タッキング(TACKING)モデル**」として、代々木調査結果における「**凧(なぎ)モデル**」として説明を行う。



9.モデル提示

- セイリングボート(ヨット)の特性 風上0度に向かって
- アメリカ調査での**タッキングモデル**
- 代々木調査での**凧モデル**
- 24・25年調査では**変化ありブLOWモデル**



10.まとめ ペットフレンドリーなコミュニティへの進路

- アメリカ調査結果からは、タッキングを経たポスト新型コロナウイルスにおいて、**新たな条件のもとでの飼育実践**が想定される。
- 代々木調査からは**凧から弱風、順風の兆し**をみとることができる。
- 風向き0度とはペットフレンドリーなコミュニティ実現への方向性とすれば、正常期としてのポスト新型コロナウイルス期において、**新たな条件のもとで0度への進路**がみられる。
- 26年アメリカ調査を8月末から9月上旬にかけて実施します。



参考文献 大倉健宏, 2025, 『ポスト・コロナ時代のペットフレンドリーなコミュニティ』新曜社.
その他の参考文献については ohkura@azabu-u.ac.jp にお尋ねください。